

学校名	伊達市立梁川中学校	校長名	高橋卓夫		
住所	福島県伊達市梁川町字菖蒲沢141番地6	児童生徒数	491名	学級数	18
T E L	024-577-0256	ホームページアドレス	http://www.yanagawa-j.fks.ed.jp		

T・Tによる少人数指導の実践

1 少人数指導の計画

本校には大・中・小規模の8つの小学校から入学しているが、特に小規模校からの入学生が約3分の1を占めている。小規模校からの入学生の多くは、多人数の生活に慣れていないためか、漠然と不安をもち、中学生活への適応が難しい傾向が見られる。このような生徒に対して、少人数学級編制の下で生徒指導、学習指導をきめ細かにを行い、中学生活により良く適応させ、学力の向上を図る。特に、1学年で数学のT・Tを実施し、学力向上を図る。

2 実践の概要

第1学年の6クラスの数学科を、週4時間のうち1時間をT・T指導で実践する。

第1学年の数学科担当がT1を、T2を教頭が務める。授業でのつまずきの見える生徒をT2がT1の説明中に机間指導し個別に対応する。また、問題演習についてはT1・T2による個別指導を行い支援した。下位生徒の対応だけでなく、問題が終わっている上位生徒には次の課題をT1が指示しT2との個別指導を実施した。

個別指導を2名で行えるため、生徒の実態がより具体的に把握できる。授業終了時には、教頭が「〇〇のところでつまずいている生徒が多かった」など、T1が見取ることができない生徒の学習状況を報告し、次時では、意図的に生徒の発言を生かしながら全体で確認することができた。

普段の授業では、活発に質問をする生徒への対応に追われてしまうことが多いが、T・Tを実施することで、目立たない生徒への対応も十分に行うことが可能となった。そのため、週1回のT・Tによる授業を心待ちにする生徒も増えている。

授業中、教頭が下位生徒の視点でT1の板書や発問を分析し、気付いた点を指摘するため、その反省を他のクラスでの授業や次時の授業にすぐ生かすことができた。



3 実践の成果と課題

○ 数学科でのT・Tの実施により、教師が一人一人の生徒に寄り添い、関わる時間が増えた。さまざまな質問やつまずいている生徒にも対応できるようになったので、生徒は数学科に対して興味・関心をもつようになってきた。それが意欲や自信につながっているように感じる。また、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションがより図られるようになってきた。

● T・T実施日は、時間割で固定されているため、T・T実施日以外の授業でT・Tであればさらに効果が期待できると実感できる場合がある。今後、T・T実施以外の授業でも、思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力を向上させ、一人一人の生徒に達成感、満足感、自己肯定感を高められるようにしたい。

● 現在のところ、本時の学習内容を伝達する等の打合わせしか行えていないにもかかわらず、上記で示した成果が表れている。打合わせの時間が十分確保できれば、T1・T2のロールプレイングによって興味関心を高める演出を行ったり、具体的な個別指導計画を作成したりして、より効果の上がる実践ができると考えられる。